

〔畜産農家の声〕 第2の人生 ” 牛飼い ” 頑張ってます！

新見市井倉 富谷英治さん
(備中県民局 畜産第二班)

○はじめに

時代にマッチした酪農および肉用牛の近代化を図るための計画の見直しが検討されている最中ですが、意欲ある担い手の育成・確保は、最重要課題の1つとなっています。

生産基盤が確立されているにも関わらず、後継者がなく廃業に至る事例が多い中、しっかりと自己のライフデザインを描き、サラリーマンを勤め上げ、定年後新たに施設を整備して、和牛繁殖経営に取り組まれている新見市の富谷英治さんをご紹介します。

経営規模

繁殖牛	9頭	子牛	9頭
牛舎	1棟	堆肥舎	1棟
放牧予定地	6反	稲わら確保	7反

○いまやらねばいつできる

富谷さんは、平成19年3月に飼料会社を定年退職されましたが、前年から用地(借地)を確保され、平成19年8月には自己資金で牛舎(現在の半分)を建てられました。

このロケットスタートができたのは、本人の努力に加え、会社がもともと乳業で、多くの牛飼(敬称の意)や技術者と交流し長年かけて情報を蓄積できたことと、さらには同じ志の先輩が他県で実践していたことも影響したようです。

ズバリ、「定年後なぜ牛飼いを始めたのですか」という問いに、躊躇無く「和牛を飼っている人は皆、生き生きしてるでしょ！」という言葉が返ってきました。

○低コストは人脈とフットワーク

牛舎は、鉄骨スレート屋根(約400㎡)で扉が可動式、マス構造で機械作業に適しており、採光・換気に配慮され、なかなかの優れものです。特記すべきはシャッター、アルミサッシ、柱(電柱)、壁材等随所に中古品がみられることで、倉庫の解体と聞くと、西に東に奔走し格安で調達されたそうです。もちろん機械も・・・



○最初から新技術

ET子牛2頭を導入し人工哺育でスタートしたそうですが、ご多分に漏れず下痢で苦労したとのこと。今ではミルクの加減や対処もわかり、何とかクリアできますよ・・・

繁殖牛は超早期母子分離して2頭ずつ飼うと発情発見が容易で、このほど除角したところ、さらに管理が楽になったそうです。

高梁家保の協力で自家採卵にも取り組み、2回で30卵程確保できたので、知り合いの酪農家に借り腹をお願いしています。

○今後の目標

牛舎の周囲は写真のとおり残土を入れたままの状態ですが、チョンゴを使って草地を造成し、牧柵も手製で整備して、今年には繁殖牛の放牧場と子牛の運動場をつくりたい。

また、自宅と牛舎が6km程離れているため、分娩監視装置の導入も考えているところです。

最期に、繁殖牛は今くらいの頭数で、ETを増やしセリには毎回2～3頭の子牛を出荷できるようにするのが目標と語っていただきました。



○畜産班から

朗らかな性格に持ち前のやる気と行動力を兼ね備え、長年培った情報と人脈を駆使して、思いを実現してゆく姿には、爽やかささえ感じられ、これから新規就農を目指す人にも大きな励みになると思います。

セリ場の電光掲示板に思い通りの数字が並び、満面の笑みをみせてくれることを期待しています。